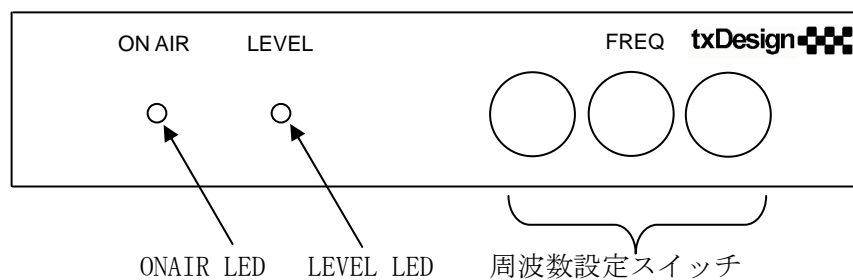


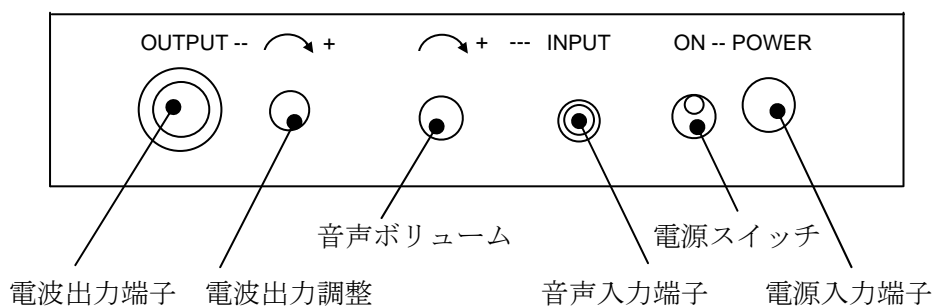
お買い上げありがとうございます。本書をよく読み、正しくご使用下さい。

<本体各部名称>

前面パネル



背面パネル



<付属品>

- ・ ACアダプタ (AC100V 入力、DC12V 出力)
- ・ ロッドアンテナ (BNC、折り曲げ可能、60cm)

<別途用意するもの>

- ・ 音声送出機器 (CDプレーヤ、ミキサー等)
- ・ 音声送出機器と本器を接続するケーブル (本器側は 3.5mm ステレオプラグ)
- ・ 周波数設定するためのマイナスインドロイバ (幅 2.5mm 以内、厚さ 0.7mm 以内)
- ・ 送信周波数近辺の電波状況と送信動作確認用 FM ラジオ

<使用方法>

予め、送信しようとする周波数、及びその周囲の周波数に他の放送がないことを確認して下さい。

1. 本体の「OUTPUT」端子に付属のロッドアンテナを接続 ※ します。
2. 「INPUT」端子に CD プレーヤなどの音源機器と適合したケーブルで接続します。
3. 送信周波数は、前面パネルの周波数設定スイッチをマイナスドライバで設定します。左から 10MHz 台、1MHz 台、0.1MHz 台を設定します。例えば、周波数設定スイッチを左から 8, 3, 7 にセットすれば、送信周波数は 83.7MHz となります。出荷設定は 85.0MHz です。
4. 電源入力端子に AC アダプタのプラグを接続します。AC アダプタ本体は 100V のコンセントに接続します。本体背面パネルの電源スイッチを上側「ON」に倒して下さい。
5. 「ONAIR」LED は電源投入で赤色に点灯し、数秒後に緑色に点灯します。
6. 音量は、音声送出側の出力レベルに応じて音声ボリュームを回して、「LEVEL」LED が緑色点灯～橙色点滅する程度に調整します。時計回りでレベルが大きくなります。「LEVEL」LED が赤色点灯する場合はレベルが大きすぎるので、下げるように調整して下さい。
7. FM ラジオ等で設定した送信周波数を受信し、正常に聞こえるか確認します。他の放送(FM, TV 等)に妨害を与えていないか確認して下さい。

※ 付属のロッドアンテナは「OUTPUT」端子に直接嵌合し、アンテナ根元のコネクタを時計回りに 90 度回してロックし、最大に伸ばして垂直にした状態で使用して下さい。

- ・電波出力調整は電波出力の増減調整ですが、特に必要がなければ動かさないで下さい。
- ・送信しない時は、電源スイッチを下側に倒し、電源オフにして下さい

<詳細説明>

- 音声入力はいPod等のポータブル機器や、市販の一般的な据置型音響機器出力レベル（ラインレベル）に対応。一部のポータブル機器や一般的なマイクロフォンはレベルが低いため本器に直接入力できません。
- 本器の音声入力はステレオアンバランス入力です。使用するケーブルはLR独立したシールドケーブルを推奨、コネクタは3極のφ3.5ミニプラグを使用し、L（左）チャンネルをチップ（先端）に、R（右）チャンネルをリングに、シールド線（グラウンド）はスリーブに接続します。市販の一般的なものと同一です。
- 「LEVEL」LEDは変調ピークレベルモニタで、音量が低い時消灯していますが、規定変調レベル（*）の50～60%（約-6dB）を超えると緑色に点灯し、規定変調レベルの約±20%（約±2dB）の範囲で橙色点灯、音量が過剰な時（約120%（約+2dB）以上）は赤色点灯します。 * 100%変調＝最大周波数偏移±75kHz
（入力レベルによらず、電源投入時、周波数変更時には一時点灯します。）

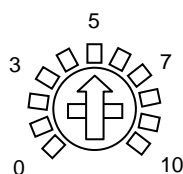
「LEVEL」LEDが橙色点灯する程度に、音声ボリュームを回し変調レベルを調整して下さい。

- 本器に入力される音声レベルを送出側で調整できる場合、本器の音声ボリュームをなるべく下げた状態（反時計回り）で使用した方が受信ノイズが少し小さくなります。
- FM 放送は、音声の高域を強めて送信し（プリエンファシス）、受信側で高域を下げて（ディエンファシス）高域のノイズを抑える仕組みになっています。その為音源に含まれる高域レベルが高い場合、さらに強められて音声が歪みます。その際は「LEVEL」LED が赤色点灯しやすくなります。受信音声が歪みっぽい場合は音声ボリュームを少し下げてください。
- 入力にフィルタを設けており、CD 等の音源を直接入力できますが、エンファシス後の音声をコンプレッサ処理する等、FM 放送の特性に適した処理を行った方が、音量の変化を抑えてより聞きやすくなります。
- 電波法の規定（送信設備から 3m 離れた場所で、 $500 \mu V/m$ 以下）により、実用的な受信範囲は送信アンテナから半径 10~20m 程度に制限されます。本器は電波出力の強度を幅広く変えることができますが、電波法制限内最大となるよう正確に出力を調整したい場合は、電界強度測定器等が必要です。
- 送信アンテナは付属のロッドアンテナか、市販の FM 放送帯対応のものをご使用状況に合わせてご用意下さい。屋外常設用には市販の FM 受信用（微弱な送信は可能です）ダイポールアンテナの日本アンテナ製 AF-1-SP を垂直に設置し、ケーブルは 5C-2V 等をお勧めします。
- なるべく広い受信範囲を得るには、周囲に障害物が無くある程度 (3~5m) の地上高に無指向性のアンテナを設置することをお勧めします。尚、送信アンテナは当方では扱っておりません。
- 「ONAIR」LED は設定した周波数で正常に出力されている時に緑色点灯し、電源投入後の数秒間、送信周波数変更時や動作異常時には赤色点灯します。この間、送信出力は電波出力調整の設定位置によらず、最低レベルになります（弱い電波は出力されます）。これにより電源立ち上げ時や送信周波数変更時に、設定周波数以外で送信することによる他の放送への妨害を抑止しています。
- 送信周波数は通電中でも直接設定できます。70.0~99.9MHz で送信可能ですが、国内 FM 放送は 76~95MHz の範囲ですので範囲外では送信しないでください。また、70.0MHz 未満に設定しても 70.0MHz 以上で送信されます。性能の保証は 75.0~95.0MHz の範囲です。
- 出荷時の電波出力は、付属のロッドアンテナで送信した際に電波法規定内となるよう設定してあります。フルサイズのダイポールアンテナ (AF-1-SP 等) で送信する場合は、電波出力調整を半時計回りに回し、出力を最低に設定して下さい。これを上回る出力は電波法違反となる可能性があります。外部に電波が漏れない屋内や、アンテナの効率が低い、ケーブルロスが大きい場合等以外は出力を大きくしないで下さい。電波出力調整を時計回りに回すと出力は大きくなります。適合するマイナスドライバで回してください。
- 本体底面の「MONO <-> STEREO」スイッチで、ステレオ変調とモノラル変調を切替できます。ステレオである必要が無い場合、モノラル受信の方がノイズが減ります。モノラル変調時は、LR 両方の音声合成されます。両方のチャンネルを入力していれば、音声レベルはステレオ時とほぼ同じになります。片側チャンネルのみの入力では、ステレオからモノラルに切り替えると、受信音声レベルが半分になります。

《参考》 電波出力調整目盛りと出力の目安

目盛りの値 (右図)	電波出力 (*)	
	[dBm]	[μ W]
3	-35	0.3
5	-30	1
7	-23	5
8	-15	30
10	-5	300

$$1000 \mu \text{W} = 1 \text{mW}$$



この図では
目盛り「5」となります

* 送信周波数 85MHz 時の代表値です。90MHz より高い周波数ではこれより 1~2dB 程度低下します。

【 危険 】 重大な危険が生じるおそれがあります。下記の事項を守ってご使用下さい。

- ・強い衝撃を与えない
- ・濡らさない (結露させない)
- ・感電防止のため、濡れた手で AC アダプタを触らない
- ・温度の非常に高い場所 (+55℃以上) で放置、使用しない
- ・湿度の極端に高い場所、水気のある場所で放置、使用しない
- ・分解、改造しない
- ・本体内部に異物を入れない
- ・AC100V 以外のコンセントに AC アダプタを接続しない

<使用上の注意>

- 許可無く設置できる微弱無線局は、電波法の規定内（無線設備から 3m 離れた場所で、 $500 \mu\text{V/m}$ 以下）である必要があります。また他の放送、通信に妨害を与えないよう留意して下さい。
- 日本国内でのみ使用して下さい。
- 長期間使用しない時は、AC アダプタをコンセントから抜いておいて下さい。
- 付属の AC アダプタは AC100V 用です。屋内で使用して下さい。
- 屋内据置使用を前提に作られています。耐候性、防水能力はありません
- 直射日光が当たる場所など特に高温になる場所や、冬季の屋外など特に低温になる場所では、故障や動作が不安定になる等、不具合の原因になりますので、設置、動作させない様にして下さい。
- 落下などの強い衝撃に耐える様には作られておりません。また、振動を与えるとノイズが変調されますのでご注意ください。
- スイッチ、ボリューム、各端子などに無理な力を加えないで下さい。
- テレビ、ラジオ等電気製品の近くには設置しないで下さい。
- アンテナは、他の電子機器や金属等、障害物から十分離して設置下さい。
- ラジオ、チューナでモニタしノイズがのっている場合は、アンテナや本体の設置場所、ケーブルの引き回しなどを変えてみて下さい。パソコンや携帯電話、調光器、モータを使用した機器など周囲に原因がある場合もあります。ノイズが止まらない場合、送信周波数を変更して下さい。
- AC アダプタを接続し電源スイッチを「ON」にしても LED が点灯しなければ、AC100V 電源が入っているか確認してください。AC100V 電源が入っていて LED が点灯しなければ故障です。この際は AC アダプタをコンセントから外して下さい。異常に発熱している場合はすぐに使用を中止し点検を依頼して下さい。
- 本体及び入出力ケーブルと AC アダプタ及びそのケーブルを近接した状態で使用すると、送信波にノイズが入る場合がありますので、AC アダプタは十分離してご使用下さい。
- パネル面の印字はステッカですので、縁をこすったりすると剥離する場合があります。結露や水濡れにもご注意ください。
- 設定周波数及びその付近の周波数（ $\pm 0.4\text{MHz}$ 程度）に他の放送局がないこと、その他の放送等に妨害を与えていないことをご確認下さい。妨害を与えている場合、周波数を変更するか本体やアンテナの位置を変えるなどで対応して下さい。尚、ポケットラジオでは混変調の場合もありますので、他の受信機でも確認して下さい。また、感度の悪い受信機、アンテナを使用する場合は、信号強度の弱い放送局の存在を無視してしまう可能性があるのでご注意ください。
- 入力レベルが過大となりますと、受信音声はひずみだけでなく、他の放送等に影響を与える恐れが大きくなりますので、ご注意ください。「LEVEL」LED が赤色点灯し続けない様にレベルを調整して下さい。
- 本送信機は、音声入力の高い周波数成分（16kHz 以上）をフィルタにより低減していますが、高域のレベルが特に大きい音源では、歪む場合があります。コンプレッサ等の使用を推奨します。または、レベルをやや下げるか高域をイコライザ等で落として下さい。
- 7Vp-p を超える信号、または $\pm 4\text{V}$ を超える直流は入力しないで下さい。

<仕様>

送信周波数 : 70.0~99.9MHz 0.1MHz 間隔

(仕様範囲 75.0~95.0MHz)

送信周波数偏差 : ±10ppm 以内

発振方式 : PLL シンセサイザ

変調方式 : FM ステレオ/モノラル

送信電力 : $\geq 0.1\text{mW}$ @最大 $\leq 1\mu\text{W}$ @最小 (連続可変)

送信電力偏差 : 3dB 以内@75~95MHz

スプリアス : -60dBm 以下@0~1GHz

公称出力インピーダンス : 50Ω

アンテナ接続端子 : BNC-J

音声入力端子 : ミニ3極フォーンジャック (3.5mm)

音声入力 : アンバランス方式

入力インピーダンス : 約 3kΩ

音声入力レベル範囲 : 0.5Vp-p~5Vp-p

音声周波数特性 : 20Hz~15kHz@2dB

変調度偏差 : 1dB 以内@75~95MHz

LR レベル差 : 0.5dB 以内

LR チャンネルセパレーション : >40dB@1kHz *

THD : <0.1%@1kHz *

S/N : >70dB (JIS A) *

変調モニタ感度 : 50(-0+10)%で緑色点灯@1kHz L+R

プリエンファシス : 公称 50μsec (日本国内仕様)

ステレオパイロット周波数 : 19kHz±2Hz

電源 : 本体 DC12V (11~13V)

付属 AC アダプタ使用 : AC100V 50/60Hz

電源ジャック : 内径 2.1mm 外径 5.5mm センタープラス

消費電力 : 約 2W

本体消費電流 : <140mA

仕様温度範囲 : +10°C~+50°C (周囲気温)

* 規定変調レベル=ステレオ 100%変調時 (最大周波数偏移±75kHz)

保証規定

ご購入後3年以内の故障は、無償修理いたします。但し筐体が開けられていないことと不適切な取扱いが無いこと、天災、過失によらないことが条件です。筐体の傷などは修理対象外です。

* ご不明の点や、動作がおかしい場合は、まず症状などをご連絡下さい。

* シリアル番号で販売年月日を管理していますので、保証書は添付しておりません。シリアル番号は本体底部に記載している6桁の番号(3036XX)です。

* パネル面印刷フィルムの若干のゆがみや傷がある場合がありますが御容赦下さい。

* 出張修理はいたしません。修理には一週間程度いただきます。

* 本器の使用によって生じた損害に関しては、一切責任を負いません。

不明点や不具合等があればご連絡下さい。連絡先は下記メールアドレスにお願いします。

設計・製作 **txDesign** 

<http://www.ne.jp/asahi/ak/fe/tx/>

メールアドレス : tx@air.email.ne.jp